

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科3年制		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	解剖生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	通年 火曜2限	教室名	703
担 当 教 員	保地 讓	実務経験と その関連資 格	大阪市立総合医療センターに臨床検査技師として勤務。主業務は病理検査(解剖含む)、血液検査、一般検査、緊急検査分野ならびに技師の教育に携わっていた。資格:国際細胞検査士、二級甲類臨床病理技術(血液)			
《授業科目における学習内容》						
<ul style="list-style-type: none"> ・眼科領域の医学知識を理解するのに必要な、全身の構造と働きを系統立てて学ぶ。 ・具体的に、人の発生から始まり細胞から胸部、腹部の各器官系及び血液系の構造(解剖学的)、機能(生理)を理解するとともに人体構成するうえでの関連性も学習する。 ・講義ごとにグループ討議テーマをグループでまとめ上げることによりチーム意識を高めさせる。 						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・各講義または実習の復習と研鑽もかねて、レポートの提出による平素評価60% ・期末試験にて、記述試験を行う。その評価点30% ・班として、学習権研鑽評価10% 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・「人体のしくみと病気」監修 奈良信雄、DVD監修 菅本一臣 出版 西東社 ・講義プリントを随時配布する。 						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・次回の講義内容または実習メモを事前に配布する。 ・講義または実習日までに関連の知識、手順を予習しておくこと。 						
《履修に当たっての留意点》						
<p>高等教育無償化に伴う新たな制度ではSDGs(持続可能な開発目標)やGPA(grade point average)成績評価方法などの客観的指標が設定されています。講義内容を理解するためにも関連する新聞記事やニュースに気付いたら、ぜひ見て下さい。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ヒトの発生について説明できるようになる。	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	卵子と精子の発生から成熟過程を学ぶ。 受精から出産までの人の発生過程を学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細胞と組織、器官系が説明できるようになる。	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	細胞から器官系に至るまでの生命体基本単位の過程を学ぶ。 細胞小胞体から器官系の形態分類と機能を学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血液Ⅰ(血液成分について説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	血液の産生機序と主な働きを学ぶ。 血球と血漿成分の違いと役割について学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血液Ⅱ(正常末梢血液中に見られる血液細胞の形態と機能が説明できるようになる。)	配布実習メモ 配布プリント 顕微鏡・染色標本	事前配布の実習ノートで今回の実習手順、知識を予習しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	顕微鏡の操作方法を実習する。 ライト・ギムザ染色血液塗抹標本を顕微鏡で観察し形態学的特徴を描写する。			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器①(肺の構造と働きが説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	肺の解剖学的構造と呼吸の仕組みを学ぶ。 肺胞での酸素と二酸化炭素との交換の仕組みを学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。			
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
講義	授業を通じての到達目標	消化器Ⅰ(上部消化管の構造と機能が説明できるようになる。)			事前配布の講義プリン	

第6回	演習形式	各コマにおける授業予定	口腔、咽頭、喉頭、食道、胃の構造と働きを学ぶ。 上部消化管の代表的な疾患を学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。	教科書 配布プリント	トで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	消化器Ⅱ(下部消化管の臓器の構造と機能が説明できるようになる。)	配布実習メモ・ 配布プリント 顕微鏡・染色標本	事前配布の実習ノートで今回の実習手順、知識を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	十二指腸、小腸、大腸、肛門の構造と働きを学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	消化器Ⅲ②(胆肝の構造と働きについて説明できるようになる。)	配布実習メモ 配布プリント 顕微鏡・染色標本	事前配布の実習ノートで今回の実習手順、知識を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	肝臓と胆嚢の解剖学的構造と働き及び関連を学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	その他臓器(甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓の構造とはたらきについて説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓の解剖学的構造、分泌されるホルモンの作用と調節に及び代表的な甲状腺疾患を学ぶ。 体内での血糖値のコントロールを学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	循環器(心臓の構造と働きについて説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	心臓の解剖学的構造と血液循環の仕組みについて学ぶ。 心臓の拍動(刺激伝達系)と心臓の栄養補給の仕組みを学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	血圧のメカニズムと高血圧との関連が説明できるようになる。	配布実習メモ 配布プリント 聴診器 血圧計	事前配布の実習ノートで今回の実習手順、知識を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	実習の目的、手順、注意点について講義。 聴診器の使用方法を学び、血圧と手指による脈拍測定実習する。 実習の総括とE-講義を中心に復習する。		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器Ⅰ(腎臓の働きについて説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の実習ノートで今回の実習手順、知識を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	腎臓の解剖学的構造と働きおよび代表的な腎疾患について学ぶ。 腎小体の構造と尿が作られる仕組みを学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器Ⅱ(尿路の構造と働きについて説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	尿管、膀胱の構造と働きと男性、女性の尿道の違いと排尿の仕組みについて学ぶ。 男性、女性の尿道の違いと排尿の仕組みについて学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	生殖器(男性、女性の構造と特徴について説明できるようになる。)	教科書 配布プリント	事前配布の講義プリントで今回の講義内容の知識を教科書等で予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	精巣、陰茎、卵巣、子宮、乳房の構造と働きについて学ぶ。 講義関連の課題や討議事項を班でディベートし発表する。 講義の総括とE-講義を中心に復習する。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	今期講義の研鑽結果をわかりやすく発表できるようになる。	配布プリント	事前に班で発表時間内であること。予想される質問事項、各自の役割、内容を協議しておくこと。
		各コマにおける授業予定	班ごとに研鑽課題をプレゼンテーションで発表する。 質疑応答後、他の班のプレゼンテーションを評価する。		